管理栄養学科　シラバス目次

4年後期

配当年次	ページ数	科目名	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ
1年～4年	138	スポーツ・リクリエーション	CH103
4年通年	256	総合演習Ⅱ	NG702
4年後期	268	ゼミナールⅢ	NS803
4年通年	272	健康・栄養総合演習概論	NH702
4年通年	276	健康・栄養総合演習Ⅰ	NH703
4年通年	278	健康・栄養総合演習Ⅱ	NH704
4年通年	280	健康・栄養総合演習Ⅲ	NH705
4年後期	304	教職実践演習(栄養教諭)	EP801

スポーツ・リクリエーション　（1 単位）　（管理栄養学科・食品学科）

開講時期　1－4 年・前～後期
担当者氏名　膳法 浩史

◆授業概要
生涯にわたって楽しむことができるスポーツやリクリエーションを身につけると生活が豊かになる。
本講座は、下記の内容を行う。
①ウォーキングラリーの体験と提案
②チームビルディングイベントの体験と提案
実習は、教室、体育館およびイベント会場で実施する。

◆到達目標
1．リクリエーション活動に積極的に取り組む。
2．スポーツ・リクリエーションイベントの提案ができる。
3．スポーツ・リクリエーションイベントの運営ができる。

◆授業計画

回	項　目	内　容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	ガイダンス	日時は履修登録者に対してメールで連絡を行う	予習　ウォーキングラリーについて調べる（60 分）
			復習　会場までの道順を調べる（30 分）
2	ウォーキングラリー①	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習　会場周辺の情報を調べる（30 分）
			復習　わからなかった用語を調べる（60 分）
3	ウォーキングラリー②	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習　ルートを確認する（30 分）
			復習　わからなかった用語を調べる（30 分）
4	ウォーキングラリー③	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習　参加者のコメントを確認する（30 分）
			復習　わからなかった用語を調べる（60 分）
5	ウォーキングラリー④	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習　ルートを復習する（30 分）
			復習　わからなかった用語を調べる（30 分）
6	ウォーキングラリー⑤	ウォーキングラリーイベントを分類し、議論する	予習　ウォーキングラリーの種類を調べる（30 分）
			復習　議論した内容をまとめる（60 分）
7	ウォーキングラリー⑥	東京聖栄大学を会場としたウォーキングラリーイベントを提案する	予習　ウォーキングラリーイベントを考える（60 分）
			復習　提案した内容をまとめる（60 分）
8	チームビルディング①	チームビルディングの基礎	予習　チームビルディングを調べる（60 分）
			復習　用語をまとめる（30 分）
9	チームビルディング②	チームビルディングの種類	予習　チームビルディングの種類を調べる（60 分）
			復習　用語をまとめる（30 分）
10	チームビルディング③	チームビルディングイベントの運営	予習　イベント運営の方法を調べる（60 分）
			復習　イベント運営の心得をまとめる（30 分）
11	チームビルディング④	チームビルディングの提案、議論	予習　新しいチームビルディングを考える（60 分）
			復習　提案内容をまとめる（30 分）
12	チームビルディング⑤	チームビルディングの練習を行う	予習　チームビルディングの方法を確認する（60 分）
			復習　流れを再確認する（30 分）
13	チームビルディング⑥	チームビルディングの練習を行う	予習　担当と流れを確認する（30 分）
			復習　担当と流れを再確認する（60 分）

14	レクリエーションイベント運営①	班に分かれてイベント運営を行う	予習　担当と流れを再確認する（30 分）
			復習　各班の発表内容をまとめる（30 分）
15	レクリエーションイベント運営②	班に分かれてイベント運営を行う	予習　各班のイベントを分類する（30 分）
			復習　各班の発表内容をまとめる（30 分）

※過去のウォーキングラリー：　2023 年度 銀座、2022 年度 神田万世橋、2020 年度 舞浜イクスピアリ

◆教科書及び資料

書　名	著　者	発行所

◆参考書

書　名	著　者	発行所

◆関連科目
体育実技

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（%）	評価項目	評価比率（%）
定期試験		小テスト	
レポート	20	実技（発表・コミュニケーション）	80
学習に取り組む姿勢・意欲			

（補足）

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法
レポートや発表に対して対面、メール、またはMoodleによって、フィードバックを行う。

◆受講上の注意事項及び助言
本実習は、集中授業であるため可能な限り欠席しないよう心掛けること。万が一、欠席する場合は個別に対応を行う。

◆オフィスアワー
受付時間：　毎回の講義終了後
受付場所：　6 号館 2 階体育学研究室
上記で対応できない場合：　質問用の電子メール（zenpou-h@tsc-05.ac.jp）で対応する。

総合演習Ⅱ　（1単位）　（管理栄養学科）

開講時期　4年・前期～4年・後期
担当者氏名　髙橋美惠子　宮内眞弓　小林陽子　風見公子　佐藤ひろ子　柴田隆一

◆授業概要

総合演習Ⅱは，臨地実習の教育効果を向上させるための事前・事後指導である。特に臨床栄養学分野を中心として給食の運営・給食経営管理論、公衆栄養学分野の分野について学ぶ。

実践活動の場において，「課題発見（気づき）・問題解決」と「専門的知識と技術の統合」を図るなどを体験することにより，事前教育において学んだ，「実習の目的，目標の理解，心構え，事前の準備の徹底，知識の整理，研究課題の設定」等がどのように活かされたか。また，臨地実習終了後，「実習内容や研究課題」をまとめることにより，関連専門職と協働関係を構築することなど，管理栄養士の職務について総合的に理解することが目的である。学内学習と臨地実習の成果を結びつけ，知識と技術の統合に務め、自分達の臨地実習の内容を学年及び下級生にも説明し、伝える能力を身につける。この授業は、講義とグループワーク、グループディスカッション、パワーポイントを使用した報告発表（プレゼンテーション）から成り立っており、発表は教員及び学年全員の評価をするアクティブ・ラーニング形式で進める。

◆到達目標

1．臨床栄養学分野の臨地実習の研修計画を実施できる。
2．課題を設定して，問題点の解決法等を文書でまとめることができる。
3．体験した職務の報告書に基づいて，発表ができる。

◆授業計画

回	項　目	内　容	予習・復習(標準的な所要時間)
1～2	報告書の作成および発表資料の作成	・給食の運営、給食経営管理論分野実習報告書をまとめる ・報告会原稿作成（スライド作成）	予習：臨地実習ノートを再読し，資料作成に役立てる。(120分)
			復習：報告書をまとめ，スライド，口頭発表原稿をまとめる。(360分)
3	臨地実習報告会	・給食の運営、給食経営管理論分野実習報告結果，課題発表	予習：各班スライドを使用し発表会練習。(120分)
			復習：他施設の発表内容からの再習。(120分)
4	臨床栄養学分野（病院・福祉）実習概要説明①	・病院，福祉施設について概要説明 ・実習施設発表	予習：上級生の報告書を再読する。(120分)
			復習：実習施設の報告書を再読する。(120分)
5	臨床栄養学分野（病院・福祉）実習概要説明②	・病院実習の概要説明 病院の現場で臨床栄養学分野を担当する管理栄養士の実体験等講義	予習：実習施設の概要の事前学習。(120分)
			復習：実習施設の概要をまとめる。(120分)
6	臨床栄養学分野（病院・福祉）実習概要説明③	・福祉施設実習の概要説明 福祉の現場で臨床栄養学分野を担当する管理栄養士の実体験等講義	予習：実習施設の概要の事前学習。(120分)
			復習：実習施設の概要をまとめる。(120分)
7	実習施設の情報収集	・医療機関の概要について事前情報収集を行う	予習：実習施設の概要の事前学習。(120分)
			復習：実習施設の概要をまとめる。(120分)
8～9	臨床栄養学分野実習における課題研究について	・臨床栄養学分野実習における課題研究テーマの考え方と方向性	予習：課題計画書の作成。(120分×2回)
			復習：計画書の再考，情報収集。(120分×2回)
10	提出書類の確認	・履歴書　・予防接種確認書 ・細菌検査結果表 ・その他提出書類一式	予習：必要書類等の準備。(120分)
11	臨床栄養学分野実習事前最終ガイダンス	実習に向けての諸注意、持参物確認等	予習：臨地実習ノートを熟読する。(60分) 復習：臨地実習ノートの再確認、持参物を自宅で確認する。(90分)
12	医療機関別ガイダンス	・各実習施設の「施設ガイダンス」	予習：実習施設の事前学習。(120分)
			復習：ガイダンス内容のまとめ。(120分)
13	臨地実習報告会練習	・報告書をまとめる ・報告会原稿作成（スライド作成）	予習：報告書，発表原稿作成。(120分)
			復習：発表原稿の再構成（120分)。
14	臨地実習報告会	・保健所，保健センター実習結果，課題発表	予習：発表資料の確認と口頭発表原稿の暗記（120分)。
			復習：他施設の発表内容からの再習。(120分)

15	臨地実習報告会	・臨床栄養学分野（病院･福祉）実習結果，課題発表	予習：発表資料の確認と口頭発表原稿の暗記。(120分) 復習：他施設の発表内容からの再習。(120分)

◆教科書及び資料

書　名	著　者	発行所
臨地実習マニュアル「臨床栄養学」第５版	寺本房子　他	建帛社
臨地実習ノート	東京聖栄大学	東京聖栄大学臨地実習センター

◆参考書

書　名	著　者	発行所
臨地実習及び校外実習の実際(2014年版)	（公社）日本栄養士会　他編	（公社）日本栄養士会，（一社）全国栄養士養成施設協会
八訂食品成分表	香川明夫　監修	女子栄養大学出版部
日本人の食事摂取基準2025年版	国立健康・栄養研究所　監修	第一出版

◆関連科目

給食計画論・給食経営管理論、栄養教育論、公衆栄養学、臨床栄養学、応用栄養学、食事介護論等およびその実習

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（%）	評価項目	評価比率（%）
定期試験		小テスト	
レポート	30	実技（発表・コミュニケーション）	20
学習に取り組む姿勢・意欲	50		

（補足）報告書の30%については誤字・脱字がなく、個人の主張が論理的かつ明確に記述されていることを確認し、5段階で評価する。学習に取り組む姿勢・意欲50%は、「積極的に意見を述べる」「チームをリードして進める努力をしている」「課題に対して指示が無くても積極的に取り組んでいる」の3項目について評価する。発表・コミュニケーションは、報告発表で教員及び学生に評価表を渡し、その点数で評価する。また、外部講師の都合等により、授業の順番は変更する可能性がある。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

課題は、内容をチェックし、訂正、コメントを記載し返却。

◆受講上の注意事項及び助言

※臨地実習実施時期が、3年後期から4年前期：医療機関（病院・福祉施設）と3年前期から3年後期（保健所・保健センター）と同一時期ではないため、報告会は別々に開催する。
事前に掲示板で連絡するので、見逃し等無いよう注意すること。
※計画された全ての日程通りに出席しないと評価されない。
※臨地実習先により、事前に要求されることが異なるので、施設に合わせた対応が出来るように準備しておくこと。

◆オフィスアワー

受付時間：随時
受付場所：臨地実習センター
上記で対応できない場合：臨地実習センター前のメッセージボードを活用する。
緊急の場合は、直接学生の携帯電話に連絡を入れることもあるので、必ず受信できる状態にしておくこと。(留守電等)

ゼミナールⅡ・Ⅲ（各１単位）　（管理栄養学科）

開講時期　　４年・前・後期
担当者氏名　管理栄養学科教員

◆授業概要
　ゼミナールⅡ・Ⅲでは、管理栄養士としての素養や知識をより確実なものとするとともに、実践的活用にも対応すべく、指導教員の教科担当分野ごとの今日的諸問題を学生からの問題提起として取り上げ、当該担当教員による適切な指導のもと学生主体の授業を展開する形で学習を進める。指導教員への学生配置は原則として学生の学習希望分野を考慮してきめる（グループの形成）。また、授業（１単位）は、グループ授業 12 回と全体授業２回、担任指導１回の全１５回をⅡ（前期）・Ⅲ（後期）に行う。

◆到達目標
１．開講年次は学生にとって最終学年であることから、学習成果が大学生活の仕上げとして実感できるように取り組む。
２．ゼミナールⅡにおいては、学習分野の情報をより多く獲得して、管理栄養士を目指す学生の資質向上に役立てる。
３．ゼミナールⅢにおいては、各分野での学習を通して、社会に出て活躍できる管理栄養士としての学問体系の総合化を図るとともに必要知識の充実と人格の一層の向上をはかる。
４．仲間と互いに協力しあい、切磋琢磨することでグループ全員の国家試験合格を勝ち取れるよう各自の実力アップを図る。

◆授業計画

回	項　目	内　容	予習・復習
1～12	グループ授業	・生化学、基礎栄養学分野（大塚） ・食品衛生学・食べ物と健康分野（星野） ・給食経営管理・スポーツ栄養の分野（風見） ・給食経営管理・スポーツ栄養の分野（柴田） ・臨床栄養学の分野（宮内） ・応用栄養学の分野（小林） ・栄養教育論の分野（髙橋） ・公衆栄養の分野（佐藤） ・保健体育学分野(膳法) ・学校現場を知ろう・教職研究の分野（有村・田中） ・基礎科学の分野（鈴木等） ・ゼミナールⅢにおいては３年生ゼミ生への指導・協働ゼミを行う	予習：分野グループごとに指示する（各回毎に 30 分） 復習：分野グループごとに指示する（各回毎に 30 分）
13	共通の分野（1）	ゼミナールの概要と身になるゼミナールの受講方法を知る。	予習：学習計画の立案と目的地・到達地を具体化する。　(30 分) 復習：ノートと資料に目を通す。(30 分)
14	共通の分野（2）	就職活動の実際と国家試験受験勉強の両立の仕方を知る。	予習：キャリアデベロップの視点に立った両立の実際を知る。(30 分) 復習：ノートと資料に目を通す。　(30 分)
15	担任指導	学生全員に対する担任指導	予習　キャリアデベロップの視点に立った両立の実際を知る。(30 分) 復習：配布資料を理解する。　(30 分)
	まとめと成績評価	総括と評価（受講態度、レポート、出席状況をみて担当教員が行う）	

◆教科書及び資料

書　名	著　者	発行所
分野グループごとに選定		

◆参考書

書　名	著　者	発行所
分野グループごとに選定		

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（%）	評価項目	評価比率（%）
定期試験		小テスト	
レポート	50	実技（発表・コミュニケーション）	20
学習に取り組む姿勢・意欲	30		

（補足）

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法
提出書類は細かくチェックし指導する。テストは解答解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言
授業の内容やグループ分けの変更、再検討は必要に応じて行う。
ゼミナール学習を作り上げる一員として積極性、協調性、出席を求める。
ゼミ担当者から皆さんへの注文です。ゼミナールは単位認定を伴う教科です。真面目に取り組む学生の参加を希望します。
ゼミナールⅢは３年生がゼミ開始となり３年生への指導、３年生とゼミの目標達成に協力して実行する。

◆オフィスアワー
受付時間：担当ごとに指示
受付場所：担当者研究室
上記で対応できない場合：各担当教員のメールボックス利用あるいはメール対応など各ゼミで教員と話し合い決定する。緊急の場合には、４年生の担任教員に指示を仰ぐ。

健康・栄養総合演習概論　（2 単位）　（管理栄養学科）

開講時期　4 年前・後期
担当者氏名　学科長　国試対策室長　星野浩子　4 年担任　4 年副担任
(試験監督は管理栄養学科教員で分担)

◆授業概要
管理栄養士資格取得のための専門基礎科目の各分野で必要とする知識を基礎として、その専門領域での理解力を深め、管理栄養士国家試験問題を解く力を向上させる。
専門基礎分野および専門分野において、横断的な学習効果の充実強化を図る。
基本的に授業プリントを用いた授業形式で、問題演習も合わせて行うことで内容の定着を図る。

◆到達目標
1．「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」、「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」の各分野の理解力を向上させ、他の関連する科目と横断的に理解を深めることができる。
2．専門基礎分野、専門分野全般にわたって総合的に理解し、応用力のある知識と実践できる能力を身につけることができる。
3．学習効果が上がるように、コミュニケーションをとりながら積極的にグループ学習ができる。

◆授業計画

回	項　目	内　容	予習・復習
1	ガイダンス(室長、星野)	前期授業の概要及び諸注意、評価方法について	予習　シラバスを読んでおく。学生便覧で単位の確認をしておく(30 分)
			復習　配布資料を読みこの授業に臨む心得を確認する. 単位取得方法を理解する。(30 分)
2	国試対策ガイダンス①(星野)	出題基準、出題傾向について 勉強方法、学習計画の立て方について	予習　前週の資料と出題基準に目を通しておく(30 分)
			復習　配布された資料を確実に理解する(30 分)
3	模擬試験①		予習　関連授業で配布されたプリントに目を通し、正文化しておく(60 分)
			復習　模試問題の見直しを確実に理解する。過去問も解き正文化する　(120 分)
4. 5	自己採点、解説(福田・正田)	「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」分野の解説とグループ学習	予習　関連授業で配布されたプリントに目を通し、正文化しておく(60 分)
			復習　模試問題の見直しを確実に理解する。過去問も解き正文化する　(120 分)
6	国試対策ガイダンス②(星野)	第 39 回管理栄養士国家試験の出題傾向	予習　配布されたプリントに目を通しておく(10 分)
			復習　解説を確実に理解する。(30 分)
7	模擬試験②		予習　関連授業で配布されたプリントに目を通しておく(60 分)
			復習　模試問題の見直しを確実に理解する(120 分)
8. 9	自己採点、解説(倉橋・佐藤)	「社会・環境と健康」「公衆栄養学」分野の解説とグループ学習	予習　関連授業で配布されたプリントに目を通し、正文化しておく(60 分)
			復習　模試問題の見直しを確実に理解する。過去問も解き正文化する　(120 分)
10～12	「食べ物と健康」分野	食品学総論、各論、食品加工学、食品衛生学食品表示等について解説　過去問を解きながら解説し、出題傾向についても解説	予習　関連授業で配布されたプリントに目を通しておく。該当分野の過去問を解き、正文化しておく。(80 分)
			復習　配布資料を確実に理解し、関連問題を解き理解する。(90 分)
13～15	「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」「臨床栄養学」分野	解剖生理学、病理学、応用栄養学、臨床栄養学について横断的に関連づけて解説。過去問を解きながら、出題傾向についても解説	予習　関連授業で配布されたプリントに目を通しておく。該当分野の過去問を解き、正文化しておく。(60 分)
			復習　配布資料を確実に理解し、関連問題を解き理解する。(90 分)
16～18	「生化学」「基礎栄養学」分野	栄養生化学、基礎栄養学を特に重要な項目を基礎から学ぶ。過去問を解きながら、出題傾向についても解説。	予習　関連授業で配布されたプリントに目を通しておく。該当分野の過去問を解き、正文化しておく。(60 分)
			復習　配布資料を確実に理解し、関連問題を解き理解する。(90 分)

19	ガイダンス　　（星野）	後期授業の概要及び諸注意、評価方法について。受験資格取得に関する注意事項について	予習　前期授業で配布されたプリントに目を通しておく(30 分) 復習　　配布資料を読み理解する。特に単位履修については深く理解する。(30 分)
20	国試対策ガイダンス③ （星野）	成績表の活用方法、学習方法、模擬試験受験後の振り返りの具体的方法 卒業生による国試体験談。特に勉強方法や、苦手科目の克服方法	予習　関連授業で配布された冊子に目を通しておく。個人成績表にどのようなことが記載されているか見てくる。(30 分) 復習　　模試問題の見直し方法・勉強方法に基づき実施した問題を見直す。出題家傾向を確認しておく。(30 分)
21	模擬試験③		予習　関連授業で配布されたプリントに目を通しておく(60 分) 復習　模試問題の見直しを確実に理解する(120 分)
22～24	自己採点、解説 （星野、大塚、鈴木）	「食べ物と健康」「基礎栄養学」分野の解説とグループ学習	予習　関連授業で配布されたプリントに目を通しておく(60 分) 復習　模試問題の見直しを確実に理解する(120 分)
25	模擬試験④		予習　関連授業で配布されたプリントに目を通す(60 分) 復習　模試問題の見直しを確実に理解する(120 分)
26. 27	自己採点、解説 （小林、宮内）	「応用栄養学」「臨床栄養学」分野の解説とグループ学習	予習　関連授業で配布されたプリントに目を通す(60 分) 復習　模試問題の見直しを確実に理解する(120 分)
28	模擬試験⑤		予習　関連授業で配布されたプリントに目を通す(60 分) 復習　模試問題の見直しを確実に理解する(120 分)
29. 30	自己採点、解説 （高橋、風見、柴田）	「栄養教育論」「給食経営管理」「応用力」分野の解説とグループ学習	予習　関連授業で配布されたプリントに目を通す(60 分) 復習　模試問題の見直しを確実に理解する(120 分)

◆教科書及び資料

書　名	著　者	発行所

◆参考書

書　名	著　者	発行所
管理栄養士国家試験完全攻略 2025	日本医歯薬研修協会	日本医歯薬研修協会
クエスチョンバンク　管理栄養士国家試験問題解説 2025	医療情報科学研究所	メディックメディア
レビューブック管理栄養士 2025	医療情報科学研究所	メディックメディア

◆関連科目

管理栄養士資格取得のために履修する専門基礎科目及び専門科目全般

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（%）	評価項目	評価比率（%）
定期試験	80	小テスト	
レポート　正文化提出	10	実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

（補足）
1. 原則ガイダンスや模擬試験の欠席は認めない。欠席した場合も後日必ず補講する。
2. 成績評価は、試験の点数だけでなく、学習に取り組む姿勢や意欲(積極的に授業に参加しているか)、 提出物の提出状況(課題提出物はすべて提出すること必須)、その内容についても評価し、総合的に判断し単位評価する。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法
模擬試験終了後は、自己採点をする。解説集も合わせて配布する。その後、授業の中で解答・解説を行う。
特に正答率の低かった問題については、担当教員が丁寧に解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言
1. 原則模擬試験の欠席は認めない。欠席届は事前に提出する。(欠席届は臨地実習、教育実習は専用の欠席届を国試対策室に1枚提出すること。就職活動等で欠席する場合は、国試対策室前に設置してある欠席届に記入し提出する。)
2. 管理栄養士国家試験受験資格必須科目であることを理解した上で、単位取得、実力向上に向け努力すること。
3. この科目においてガイダンス（5回)は重要であるので、欠席しないこと。欠席した場合には後日、冊子やプリント提出する。
4. この科目に関する質問や各種届け等は、国試対策室で受け付ける。
5. 当日急な欠席の場合は、メールにて連絡すること。

◆オフィスアワー
受付時間：月曜～金曜の昼休みまたは放課後(国試対策室)
受付場所：国試対策室または星野研究室
上記で対応できない場合：国試対策室前のメッセージボードに氏名、用件を記入。
メールでの質問も可能。　hoshino@tsc-05.ac.jp 星野メール

健康・栄養総合演習Ⅰ　（4単位）　（管理栄養学科）

開講時期　4年・前･後期
担当者氏名　正田良介　鈴木等　古庄律　福田亨　大塚静子　中島肇　星野浩子　熊谷美智世

◆授業概要

専門基礎分野の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」及び「栄養学」は、管理栄養士が実務を遂行するために身につけておくべき基本教科である。国家試験対策においてもその理解は最も重要であるにもかかわらず、学生が苦手とする教科である。4年次に開講される国家試験対策補習の実効を上げるためにもその理解は不可欠である。健康・栄養総合演習Ⅰにおいては、各教科の基礎力の確認と国家試験対策に支障のないレベルへの実力向上を目指す。

基本的に授業プリントを用いた授業形式で、問題演習も合わせて行うことで内容の定着を図る。

◆到達目標

1．専門基礎分野の基礎力を固め、科目を越えて横断的かつ総合的に応用する能力をつけることができる
2．管理栄養士国家試験に合格できる知識と能力を身につけることができる

◆授業計画

回	項　目	内　容	予習・復習（標準的な所要時間）
14回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(正田)	・病変 ・疾患の症状と病態生理 ・疾患の診断と治療 まとめと過去問演習と解説	予習　配布資料を読み、問題の仕上げを確実に行い、ノートにまとめ、整理、理解する。適宜、小テストにも備える。(60分) 復習　実施した練習問題を見直し、間違えた部分を整理、理解しておく。(60分)
12回	生化学Ⅱ（福田）	・人体の構造 ・生体エネルギー、糖質・たんぱく質・脂質の代謝 ・核酸、酵素、情報伝達機構及び恒常性 苦手項目の解消と向上を過去問題により実施する過去問題演習	予習　配布資料を読み、問題の仕上げを確実に行い、ノートにまとめ、整理、理解する。適宜、小テストにも備える。(60分) 復習　実施した練習問題を見直し、間違えた部分を整理、理解しておく。(60分)
14回	栄養学（大塚）	・栄養の概念 ・食行動 ・消化と吸収 ・五大栄養素の構造と機能 ・水・電解質 ・エネルギー代謝 まとめと過去問演習と解説	予習　配布資料を読み、問題の仕上げを確実に行い、ノートにまとめ、整理、理解する。適宜、小テストにも備える。(60分) 復習　実施した練習問題を見直し、間違えた部分を整理、理解しておく(60分)。
28回	食品学（古庄20回・中島8回）	・食べ物と健康分野のガイドライン説明 ・食品の分類と食品の成分 ・食品成分表 ・食品の機能性とその成分 ・食品の生産、加工、保存、流通 ・栄養素の変化 まとめと過去問題演習・解説	予習　配布資料を読み、問題の仕上げを確実に行い、ノートにまとめ、整理、理解する。適宜、小テストにも備える。　(60分) 復習　実施した練習問題を見直し、間違えた部分を整理、理解しておく。(60分)
14回	食品衛生学（星野）	・食品衛生関連法規 ・食品の変質 ・食中毒 ・感染症 ・食品中の有害物質 ・食品添加物 ・食品衛生管理 ・新しい安全性の問題 ・食品の安全性、表示と規格基準 まとめ過去問演習および解説	予習　過去問を解いて正文化しておく。重要な語句をノートにまとめておく。小テストに備え、ノートを繰り返し見ておく。(60分) 復習　実施した練習問題を見直し、間違えた部分を整理、理解しておく。キーワードをまとめる。関連した過去問を再度解く。(60分)
10回	調理学（熊谷）	・テクスチャー ・食品の容器包装 ・官能評価 ・非加熱・加熱調理操作、調理器具 ・熱の伝わり方 ・食品の調理性 ・供食 まとめと過去問題演習及び解説	予習　配布資料を読み、問題の仕上げを確実に行い、ノートにまとめ、整理、理解する。適宜、小テストにも備える。(60分) 復習　実施した練習問題を見直し、間違えた部分を整理、理解しておく。　(60分)

10 回	専門基礎科目（鈴木）	過去問で出題される基礎科学について繰り返し演習する	予習　配布資料を読んで、重要な語句をノートにまとめておく。ノートを繰り返し見ておく(60分)。 復習　実施した練習問題を見直し、間違えた部分を整理、理解しておく。(60分)

◆教科書及び資料

書　名	著　者	発行所
特になし		

◆参考書

書　名	著　者	発行所
クエスチョン・バンク　管理栄養士国家試験問題解説	医療情報科学研究所	メディックメディア
管理栄養士国家試験完全攻略	日本医歯薬研修協会	日本医歯薬研修協会
レビューブック管理栄養士	医療情報科学研究所	メディックメディア

◆関連科目

基礎栄養学、栄養生化学Ⅰ・Ⅱ、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、病理学Ⅰ・Ⅱ、食品学総論Ⅰ・Ⅱ、食品学各論Ⅰ・Ⅱ、食品衛生学、調理学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（%）	評価項目	評価比率（%）
定期試験	80	小テスト	10
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

（補足）

1. 定期試験において 100 点満点中 60 点を合格とするが、学習に取り組む姿勢等も含めて総合的に評価し、単位認定する。
2. 中間試験を 2 回(7 月、10 月)実施する。中間試験でも不合格者に対して再試験を実施する。
3. 担当教員の出題数は、正田(20 問)、福田(15 問)、大塚(15 問)、古庄・中島(20 問)、星野(15 問)、熊谷(10 問)、鈴木等(5 問)である。
4. 欠席数は授業回数の 1/3 を超えないこと。担当教員ごとに集計する。ただし、授業回数の少ない担当教員の授業はこの限りではない。臨地実習、教育実習は専用の欠席届を国試対策室に 1 枚提出すること。就職活動等で欠席する場合は、国試対策室前に設置してある欠席届に記入し提出する。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

試験終了後や課題提出後、授業内で解答・解説を実施する。

◆受講上の注意事項及び助言

管理栄養士国家試験受験資格必須科目であることを理解した上で、単位取得、実力向上に向け努力すること。
国家試験の日程を考慮し、定期試験を実施する。

◆オフィスアワー

受付時間：　授業担当教員から授業開始時に指示。基本的に授業終了時に対応する。
受付場所：　授業担当教員研究室
上記で対応できない場合：授業担当教員研究室前のメッセージボードに氏名、用件を書いておく。
（メール対応可）
授業全体に関することは、国試対策室に問い合わせること。メール可　hoshino@tsc-05.ac.jp（星野）

健康・栄養総合演習Ⅱ　（4 単位）　（管理栄養学科）

開講時期　4 年・前・後期
担当者氏名　正田良介　小林陽子　宮内眞弓

◆授業概要
専門基礎分野の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」及び、専門分野の「臨床栄養学」と「応用栄養学」は、管理栄養士が実務を遂行するために身につけておくべき専門教科である。管理栄養士国家試験対策においてもその理解は最重要であるにもかかわらず学生が苦手とする教科でもある。4 年次に開講される管理栄養士国家試験対策補習の実効を上げるためにもこの分野を理解することは不可欠である。健康・栄養総合演習Ⅱにおいては、各教科の基礎力の確認と国家試験対策に向けて実力向上を目指す。

◆到達目標
1．専門基礎分野及び専門分野の実力と応用力を十分に身につけることができる。
2．管理栄養士国家試験に合格できる知識と能力を身につける。

◆授業計画

回	項　目	内　容	予習・復習（標準的な所要時間）
12回	疾病の成り立ち	・疾病診断の概要　・疾病治療の概要 ・栄養障害と代謝疾患　・消化器系 ・循環器家　・腎・尿路系 ・内分泌系　・神経系　・呼吸器系 ・運動器（筋・骨格）系　・生殖系 ・血液・リンパ・凝固系 ・免疫、アレルギー系　・感染症 ・特殊環境と栄養ケア	予習：教科書、参考書、配布資料等を読み、予習し過去問を基にしたテストに備える（テーマ毎 60 分×12 回） 復習：授業内容を復習し、テスト内容について再度見直す（特に誤り箇所について重点的に見直す）（テーマ毎 60 分×12 回）
12回	臨床栄養学Ⅰ（基礎分野）	・臨床栄養学の概念 ・傷病者・要介護者の栄養アセスメント ・栄養ケアの計画と実施 ・栄養・食事療法、栄養補給法 ・傷病者・要介護者への栄養教育 ・モニタリング、再評価 ・薬と栄養・食事の相互作用 ・栄養ケアの記録	予習：教科書、参考書、配布資料等を読み、予習し過去問を基にしたテストに備える（テーマ毎 60 分×12 回） 復習：授業内容を復習し、テスト内容について再度見直す（特に誤り箇所について重点的に見直す）（テーマ毎 60 分×12 回）
18回	臨床栄養学Ⅱ（疾患・病態別）	・栄養障害　・肥満と代謝疾患 ・消化器疾患　・循環器疾患 ・腎・尿路疾患・内分泌疾患 ・神経疾患　・摂食障害 ・呼吸器疾患・血液系の疾患病態 ・筋・骨格疾患　・感染症 ・免疫・アレルギー疾患　・癌 ・手術、周術期患者の管理 ・クリティカルケア ・摂食機能の障害 ・身体・知的障害・乳幼児疾患 ・妊産婦・授乳婦疾患 ・老年症候群	予習：教科書、参考書、配布資料等を読み、予習し過去問を基にしたテストに備える（テーマ毎 60 分×18 回） 復習：授業内容を復習し、テスト内容について再度見直す（特に誤り箇所について重点的に見直す）（テーマ毎 60 分×18 回）
9回	応用栄養学Ⅰ	・栄養ケア・マネジメントの概念 ・栄養アセスメント ・栄養ケア計画の実施、モニタリング、評価、フィードバック ・食事摂取基準の意義 ・食事摂取基準策定の基礎理論 ・食事摂取基準活用の基礎理論 ・エネルギー・栄養素別食事摂取基準	予習：教科書、参考書、配布資料等を読み、予習し過去問を基にしたテストに備える（テーマ毎 60 分×9 回） 復習：授業内容を復習し、テスト内容について再度見直す（特に誤り箇所について重点的に見直す）（テーマ毎 60 分×9 回）
9回	応用栄養学Ⅱ	・成長、発達、加齢の概念 ・妊娠期・授乳期 ・新生児期・乳児期 ・成長期（幼児期・学童期・思春期） ・成人期（成人期・更年期） ・高齢期　等各ライフステージ毎の生理的特徴及び栄養アセスメントと栄養ケア ・運動・スポーツと栄養 ・運動と栄養ケア ・環境と栄養 ・ストレスと栄養ケア	予習：教科書、参考書、配布資料等を読み、予習し過去問を基にしたテストに備える（テーマ毎 60 分×9 回） 復習：授業内容を復習し、テスト内容について再度見直す（特に誤り箇所について重点的に見直す）（テーマ毎 60 分×9 回）

◆教科書及び資料

書　名	著　者	発行所
臨床栄養学　基礎編	本田佳子　土江節子　曽根博仁	羊土社
臨床栄養学　疾病別編	本田佳子　土江節子　曽根博仁	羊土社
応用栄養学	森基子　他	医歯薬出版
応用栄養学実習	五関正江　他	建帛社

◆参考書

書　名	著　者	発行所
クエスチョン・バンク　管理栄養士国家試験問題解説	医療情報科学研究所編	メデイックメデイア
日本人の食事摂取基準（2020 年版）	厚生労働省「日本人の食事摂取基準（2020 年版）」策定検討会報告書	第一出版
レビューブック	医療情報科学研究所編	メデイックメデイア

◆関連科目

人体の構造と機能・基礎栄養学・栄養教育論・公衆栄養学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（%）	評価項目	評価比率（%）
定期試験	80	小テスト	10
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

（補足）

1. 定期試験において 100 点満点中 60 点を合格とするが、学習に取り組む姿勢等も含めて総合的に評価し、単位認定する。
2. 中間試験を 1 回（7 月）実施する。中間試験でも不合格者に対しで再試験を実施する。
3. 当教員の出題数は、小林（33 問）宮内(67 問)である。
4. 欠席数は授業回数の 1/3 を超えないこと。担当教員ごとに集計する。臨地実習、教育実習は専用の欠席届を国試対策室に 1 枚提出すること。就職活動等で欠席する場合は、国試対策室前に設置してある欠席届に記入し提出する。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

提出後、授業内で解答・解説する。

◆受講上の注意事項及び助言

管理栄養士国家試験受験資格必須科目であることを承知し、単位取得、実力向上に向け努力すること。
国家試験の日程を考慮し、定期試験を実施する。

◆オフィスアワー

受付時間：授業担当教員から授業開始時に指示。基本的には授業終了時に対応する。
受付場所：授業担当教員研究室

上記で対応できない場合：授業担当教員研究室前のメッセージボードに氏名、要件を書いておく。また、大学に登校できない場合は、メールで対応も行う。

健康・栄養総合演習Ⅲ　（４単位）　（管理栄養学科）

開講時期　４年・通年
担当者氏名　倉橋俊至　髙橋美惠子　佐藤ひろ子　風見公子　柴田隆一

◆授業概要
　専門基礎分野の「社会・環境と健康」と専門分野の「公衆栄養学」、「栄養教育論」、「給食経営管理論」は、管理栄養士として実務を遂行するために身につけておくべき基本教科である。国家試験対策においてもその理解は最重要である。各教科の基礎力の向上と管理栄養士国家資格取得のための実力向上を目指す。

◆到達目標
１．４分野教科の基礎力を十分に身につけ、横断的な理解と応用力を養う
２．管理栄養士国家試験合格レベルを達成する

◆授業計画

回	項　目	内　容	予習・復習（標準的な所要時間）
15回	公衆衛生学（倉橋俊至）	・社会と健康(1) ・環境と健康(1) ・健康、疾病、行動に関わる統計資料(2) ・健康状態・疾病の測定と評価(2) ・生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策(2) ・主要疾患の疫学と予防対策(3) ・保健・医療・福祉の制度(3) ・公衆衛生学関係応用(1) 以上のまとめ及び過去問演習等	予習：教科書、配布資料を読んで、重要なキーワードをノートにまとめておく(60分) 模試テストや小テストに備え、不明点を調べ質問や確認をする。(60分) 復習：模試テストや小テストで苦手な項目については配布資料や教科書などで理解を深めておく。(60分)
15回	栄養教育論（髙橋美惠子）	・行動科学の理論とモデル（1） ・栄養カウンセリング（1） ・行動変容技法と概念（1） ・組織づくり・地域づくりへの展開（1） ・栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル（1） ・健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント(1) ・栄養教育の目標設定（1）　・栄養教育計画立案（1） ・栄養教育プログラムの実施（1） ・栄養教育の評栄養教育の評価（1） ・ライフステージ別の展開（2） ・栄養教育論関係応用（3） 以上のまとめ及び過去問演習等	予習：教科書、配布資料を読んで、重要なキーワードをノートにまとめておく(60分) 模試テストや小テストに備え、不明点を調べ質問や確認をする。(60分) 復習：模試テストや小テストで苦手な項目については配布資料や教科書などで理解を深めておく。(60分)
15回	公衆栄養学（佐藤ひろ子）	・公衆栄養の概念（1） ・健康・栄養問題の現状と課題（2） ・栄養政策（3） ・栄養疫学（3） ・公衆栄養マネジメント（3） ・公衆栄養プログラムの展開（3） ・公衆栄養学関連応用(1) 以上のまとめ及び過去問演習等	予習：教科書、配布資料を読んで、重要なキーワードをノートにまとめておく(60分) 模試テストや小テストに備え、不明点を調べ質問や確認をする。(60分) 復習：模試テストや小テストで苦手な項目については配布資料や教科書などで理解を深めておく。(60分)

15 回	給食経営 管理論 （風見公子 ・柴田隆一）	・給食の概念(4) ・給食経営管理の概念(2) ・栄養・食事管理(1) ・給食における品質管理・生産管理・提供管理(5) ・給食の安全・衛生（2） ・給食経営管理論関連応用（1） 以上のまとめ及び過去問演習等	予習：教科書、配布資料を読んで、重要なキーワードをノートにまとめておく(60 分) 模試テストや小テストに備え、不明点を調べ質問や確認をする。(60 分) 復習：模試テストや小テストで苦手な項目については配布資料や教科書などで理解を深めておく。(60 分)
授業回数（60 回）		公衆衛生学　（15 回），　栄養教育論　（15 回） 公衆栄養学　（15 回），　給食経営管理論（15 回）	

◆教科書及び資料

書　名	著　者	発行所
各科目の教科書		

◆参考書

書　名	著　者	発行所
クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説	医療情報科学研究所編	メデイックメデイア
管理栄養士国家試験完全攻略	日本医歯薬研修協会	日本医歯薬研修協会
レビューブック管理栄養士	医療情報科学研究所	メディックメディア

◆関連科目

公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ，保健・福祉概論，公衆栄養学，公衆栄養学実習

栄養教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・栄養教育論実習，給食計画論，給食経営管理論・給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（%）	評価項目	評価比率（%）
定期試験	80	小テスト	10
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

（補足）

1. 定期試験において 100 点満点中 60 点を合格とするが、学習に取り組む姿勢等も含めて総合的に評価し、単位認定する。
2. 中間試験を 1 回(7 月)実施する。中間試験でも不合格者に対して再試験を実施する。
3. 担当教員の出題数は、倉橋(25 問)、髙橋(25 問)、佐藤(25 問)、風見・柴田(25 問)である。
4. 欠席数は授業回数の 1/3 を超えないこと。担当教員ごとに集計する。臨地実習、教育実習は専用の欠席届を国試対策室に 1 枚提出すること。就職活動等で欠席する場合は、国試対策室前に設置してある欠席届に記入し提出する。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

試験終了後や課題提出後、授業内で解答・解説を実施する。

◆受講上の注意事項及び助言

管理栄養士国家試験受験資格必須科目であることを承知し、単位取得、実力向上に向け努力すること。
国家試験の日程を考慮し、定期試験を実施する。

◆オフィスアワー

受付時間：　授業担当教員から授業開始時に指示。基本的に授業終了時に対応する。
受付場所：　授業担当教員研究室
上記で対応できない場合：授業担当教員研究室前のメッセージボードに氏名、用件を書いておく。
学生個人と時間、場所を打ち合わせ対応する。又はメールで対応する。

教職実践演習　（２単位）　（管理栄養学科）

開講時期　４年・後期
担当者氏名　有村久春　田中広美　嶺井正也

◆授業概要
本授業では、栄養教諭が学校全体の食のコーディネーターとしての中核的役割を担うため、学校経営と給食経営、各教科を網羅した「食に関わる年間計画」の検証を軸とした教育活動が行われていることを理解する。その上で、食に関する分野の教科・特別活動等における栄養教諭としての指導案の研究や教材研究、それに関わる指導技術の向上を図る。また、毎回の模擬授業後は自評及び研究協議を重ね、より栄養教諭としての自覚と資質の改善を図る。

◆到達目標
１．小学校・中学校における栄養教諭としての資質向上を目指すことができる。
２．事例研究や模擬授業、栄養教育実習報告会、栄養教育実習課題研究発表会などを通して、栄養教諭としての使命感や責任感、教育的な愛情等を確認できる。
３．教育現場に必要な社会性や対人関係能力に関する知識を習得し、現場での実践力を高めることができる。

◆授業計画

回	項　目	内　容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	教職の責任と倫理（有村）	教職の意義と栄養教諭の職務内容、子どもに対する責任感について理解する。	予習　シラバスを読んでくる。(60 分) 復習　要点をレポートにまとめる。(60 分)
2	履修履歴の把握と教職への適性　（有村）	履修履歴について確認し、教職への適性について理解する。	予習　学生便覧の教職課程履修規定を読んで取得単位の確認をする。(60 分) 復習　要点をレポートにまとめる。(60 分)
3	組織の中の教員（有村）	学校での栄養教諭の位置づけや使命感や責任感、教育的愛情等を確認する。	予習　教育課程論で学んだ栄養教諭の職務を復習してくる。(60 分) 復習　要点をレポートにまとめる。(60 分)
4	教育現場の現状（有村）	教育現場において必要とされる教諭としての資質能力を理解する。	予習　理想の教師像を考えてくる。(60 分) 復習　授業の要点をレポートにまとめる。(60 分)
5	教員の働き方について（嶺井）	社会的な問題になっている教員の働き方の現状と改善方法を具体的に考える。	予習　教員の働き方改革の現状をしらべておく(60 分) 復習　教員の働き方改革が進んでいる自治体の取組みをまとめる。(60 分)
6	インクルーシブ教育と特別支援教育について（嶺井）	障害者権利条約に基づくインクルーシブ教育システムのもとでの特別支援教育の実践的課題を考える。	予習　障害者権利条約第 24 条を熟読しておく(60 分) 復習　通常学級内での特別支援教育の実践例のポイントを整理する。(60 分)
7	いじめの重大事態について（嶺井）	いじめの重大事態の予防と事後対応を具体的に考える。	予習　いじめの重大事態について事前に配付した資料を読んでおく(60 分) 復習　とくに重大事態の予防策を整理しておく。(60 分)
8	事例研究①（田中）	教育現場としての学校給食の意義を理解し課題を明らかにし、解決法を討議する。	予習　教育実習中に学んだ学校給食を中核とした指導の実践例をまとめる。(60 分) 復習　授業の要点をまとめる。(60 分)
9	事例研究②（田中）	教育現場における食に関する指導の全体計画を理解し目標達成のための課題を明らかにし、解決法を討議する。	予習　実習校における食に関する全体計画の学年ごとの目標と実践内容を確認する。(60 分) 復習　授業の要点をまとめる。(60 分)
10	事例研究③（田中）	栄養教育実習等での経験をもとに望ましい指導法について理解する。	予習　食に関する指導（授業・給食・個別相談）を実習ノートにて確認する。(60 分) 復習　授業の要点をまとめる。(60 分)

11	課題研究発表①（全員）	実習中における課題について更に研究を深め課題解決法を発表し、学びを共有する。	予習　課題研究発表会の準備をする。(60 分) 復習　課題研究発表会のレポートを作成（60 分）
12	課題研究発表②（全員）	実習中における課題について更に研究を深め課題解決法を発表し、学びを共有する。	予習　課題発表会の準備をする。(60 分) 復習　課題研究発表会のレポートを作成(60 分)
13	課題研究発表③（全員）	実習中における課題について更に研究を深め課題解決法を発表し、学びを共有する。	予習　課題研究発表会の準備をする。(60 分) 復習　課題研究発表会のレポート作成(60 分)
14	教職課程履修者(3 年～4 年)合同研究会(全員)	教職課程履修者(1年～4年)合同で教職課程履修内容の全体を通して学び合う。	予習　履修を振り返り考えをまとめておく(60 分) 復習　授業のレポートをまとめる。(90 分)
15	授業総括 資質能力の確認とまとめ（全員）	履修履歴を確認し、課題発表の結果について各自で自己評価を行う。	予習　課題研究発表会のレポート作成。(90 分) 復習　栄養教育実習ノート・履修カルテをまとめ担当教諭との面談を行う。(90 分)

◆教科書及び資料

書　名	著　者	発行所
四訂　栄養教諭論　理論と実践	金田　雅代	建帛社
栄養教諭のための教育実践演習・栄養教育実習ノート	芦川　修貳	学建書院

◆参考書

書　名	著　者	発行所
学習指導要領解説　総則編	文部科学省	ぎょうせい
食に関する指導の手引	文部科学省	東山書房

◆関連科目

基礎栄養学　臨床栄養学　応用栄養学　調理学　給食計画論　栄養教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　栄養教育実習１
教職概論　教育原理　教育心理学　教育制度論　道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の指導　教育方法論
生徒指導の理論と方法　学校ボランティア

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（%）	評価項目	評価比率（%）
定期試験		小テスト	
レポート	４０	実技（発表・コミュニケーション）	４０
学習に取り組む姿勢・意欲	２０		

（補足）＊学習に取り組む姿勢・意欲については、授業内容への問いに積極的に応えること、レポート作成および課題のプレゼンなどに取り組むことを積極的に評価する。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

・指導案やレポート等をコピーし、受講学生全員に配布する。学びの共同化を図る。
・課題レポートを授業の事前に配布し、予習内容として活用する。また、発表会に活用する。
・１年生から４年生までの合同の研究会を設け学びの共同化を図る。

◆受講上の注意事項及び助言

・積極的に学習に取り組むこと。(課題研究・指導案・教材作成等)
・課題レポートに意欲的に取り組むとともに提出期限を厳守すること。
・グループ演習等自ら積極的に取り組むこと。

◆オフィスアワー

時　　間：学期開始時に学務課で確認すること。
受付場所：4 号館 5 階　教育学第 2 研究室
※上記で対応できない場合：研究室入口の伝言板に要件を記入すること。